

今回もシンプルなケースを材料に学びます。

今回は、「全体性」とそれに沿った症状（Rubrics）をどう選ぶか？考えて行きます。

全体性

ケースの「全体性」をどのように見るか？は、とても大切です。

全体性を狭く見すぎるとレメディは限定的すぎて、時に抑圧的に働いてしまいます。

逆に広く見すぎると、焦点がボケて何も変化を起こせないことになります。

ケースを十分に理解した上で、適切な「全体性」を捉え、その全体像に類似したレメディを考えて行くことで、そのケースに必要なレメディを選ぶことが出来ます。

クラシカルホメオパスは、全体性を広く見すぎてしまうという間違いを起こしやすいと言われています。なぜだか、分かりますか？

ケースに取り組む

ケース全体をよく理解する大切さは、常に変わりません。

「クライアントさんの何が癒されるべきか？（病の中心 Wesen）」を理解することが大切です。それが、ケースの全体性を見極めるのに一番大切な点です。

これまでも学んだようにケース学習の取り組み方の順序は、以下の通りです。

1. まず、ケースを一読して、ケースの①印象を書き留める。
2. 再読して、クライアントの特徴的な点（症状）をピックアップする。
3. ピックアップした特徴的な点の全体を眺める。
4. これらを元に、「前分析」を試みる。

②健康度（0～10）

③予後（良いレメディがある時／レメディがない時）は、どうなるか？

④救急性（急性か慢性か～救急性があれば、まずはそこから始める）

⑤治癒を妨げているものの有無は？

⑥親和性（部位）

⑦マヤズム傾向（Psora Syphilis Cancer TB 等）

⑧全体性（ケースでの乱れはどこにあり、レメディはいくつ必要になるか？）

⑨バイタリティー

5. 本分析＝「何が癒されるべきか？」（病の中心 Wesen＝統合）をとらえる。

6. 「何が癒されるべきか？」から外れない症状を Rubrics として選び、Rep.する。

7. Rep.表の候補レメディから、ベストレメディを選ぶ。

8. 最終的には、ポテンシーとドーズを決めて、クライアントに提案する。

さて、ケース学習では、この教室を出たら、決して、その内容について話すことなく、守秘義務を守って下さい。
では、始めましょう。